

おおみそか
大晦日のお客

むかし。

ある大晦日のばんに、まずしい旅人が、ある家の戸をたたきました。

「どうか、ひとばん、泊^とめてもらえんだろうか」

けれども家の人は、旅人のきたない身なりを見て、泊^とめてくれませんでした。

旅人は、となりの家に行つて、

「どうか、泊^とめてもらえんだろうか」とたのみました。

すると、

「まあ、きのどくに。泊^とめてやろう」といって、中に入れてくれました。そまつな家だったので、土間^{どま}にむしろをしいて、ねかせてくれました。

夜が明けると、元旦^{がたん}です。

家の人は、旅人を起こそうとしました。ところが、見ると旅人は死んでいました。おどろいて、旅人の手をひよつと引っぱたら、手は、ジャラジャラッと、お金になりました。またもうかたほうの手を引っぱたら、その手も、ジャラジャラッと、お金になりました。まあ、足をひよつと引っぱたら、またジャラジャラつとお金になります。旅人のからだはみんなお金になりました。

こうして、旅人を泊^とめてやった家は、大金持ちになったそうです。

大晦日のばんは、ゆつくり夜ふかししていると、福^{ふく}がやってくるかもしれませんよ。

おしまい。

* 元旦 一月一日の朝